



第 33 回 日本静脈学会総会が

2013 年 6 月 28 日(金)から 6 月 29 日(土)に

大阪国際会議場にて開催されます。

当院からは血管外科 医長 今井 崇裕 医師が

6 月 29 日の 14:00~14:40 に第 4 会場にて

学術発表いたしますので、ご紹介します。

再発を理由に外来を受診した下肢静脈瘤患者3例の検討

Clinical experience three cases of outpatient for recurrent varicose veins

西の京病院 血管外科 今井崇裕

抄録：他医で治療後、再発を理由に当院を受診した下肢静脈瘤患者に外科治療を行った3例に対して、その原因を検討した結果を報告する。【症例1】69歳女性。3年前に他医皮膚科で右大伏在静脈選択的抜去切除術を施行した。術後より右下腿後面の皮膚色素沈着および熱感は改善しなかったが放置していた。来院時に小伏在静脈の高度拡張と逆流が確認され、高位結紮術を施行した。【症例2】76歳女性。25年前に他医外科で右大伏在静脈抜去切除術を施行した。術後静脈瘤は消失し下肢の倦怠感などの症状は改善していたが、5年前より右下肢の足関節内側部から大腿部にかけて再度静脈瘤が出現したため外来を受診された。超音波および順行性静脈造影検査を施行したところ、鼠径部と足関節部に手術痕は認められたが、抜去されたはずの大伏在静脈が足関節から大腿中部まで描出され、拡張したCockett交通枝、Boyd交通枝、Dodd交通枝が確認された。遺残した大伏在静脈に対して内翻式ストリッパーを用いて抜去切除術を施行した。【症例3】53歳女性。1年前に他医皮膚科で右下肢静脈瘤に対して硬化療法を行った。3カ月程前より、再度静脈瘤が出現し外来を受診された。拡張した大伏在静脈に対して内翻式ストリッパーを用いて選択的抜去切除術を施行した。3例とも術後経過は良好であった。下肢静脈瘤の患者は術後数回の外来診察で終了となる場合がほとんどであるが、再発の可能性のある患者に対してはある程度期間をおいて診察することも重要であると思われた。